

悪業に染まる月

written by:#6

このシナリオはクトゥルフ神話TRPGシナリオ集『イブ・ツトゥルの景象』に掲載されたシナリオのインセイン版となります。他にも素敵なシナリオが揃っていますので、クトゥルフ神話TRPGも遊ぶ方は、ぜひ購入をご検討ください。



1. はじめに

このシナリオは、マルチジャンル・ホラーTRPG『インセイン』に対応したシナリオである。必要なものは基本ルールブックのみであるが、GMの判断により任意のサプリメントを使用しても良い。

ゲーム中は、屋敷の地図（プレイヤー資料1）をテーブルの上に置いて進めると場所のイメージをつかみやすいだろう。

また、このシナリオは作りたてのキャラクター2～4人向けにデザインされている。プレイ時間はキャラクターの作成時間を含まない場合、4～5時間程度だろう。

シナリオのセッティングは『本当は怖い現代日本』である。

2. シナリオの概略

K大学から少し離れた住宅街に、幽霊が出ると言われる無人の屋敷があった。この幽霊は人に化け、騙された人間を殺すという。幽霊の正体は首のない怪物、『イゴーロナク』である。

三十年ほど前、この屋敷にはとある夫婦とその子供が住んでいた。しかし、偶然手に入れた『グラーキの黙示録』によって正気を失った妻が、疑心暗鬼の末に夫を刺し殺してしまう。

それ以来廃墟となったこの屋敷では、イゴーロナクの悪意が無謀な侵入者たちを待ち構えている。この屋敷を訪れた者は、イゴーロナクに見せられた幻覚によって、本人も気付かぬうちに狂気に触まれ、仲間へと刃を向けるようになるのだ。屋敷には、そのための武器も十分に用意されている。

物語は、PCたちが友人に誘われて幽霊屋敷に忍び込むところから始まる。果たして彼らは無事に屋敷から帰ることができるのだろうか？



3. PC ハンドアウト

1 北川未来の友人 (職業：自由)

【使命】

あなたは友人である北川未来に、幽霊屋敷探索に強引に駆り出された。あなたの使命は、無事に帰宅することである。

【秘密】

ショック：全員

「イゴーロナク」

屋敷に入った時から、何故かその言葉があなたの脳裏に焼き付いている。

人名？ 地名？ それが何かは分からない。

しかし、その言葉を口に出すと不吉なことがあるような予感がして、あなたはそれを口にすることができない。

……錯乱でもしない限りは。

★また、この秘密はトリガーを満たすと、とある狂気として顕在化する。トリガーが満たされない限り、これは狂気には数えない。

(この狂気の内容はプレイヤーにも不明であり、トリガーが満たされた時に公開される)

3 飛び入りの参加者 (職業：学生)

【使命】

あなたは北川未来から幽霊屋敷探索の話を聞いて、飛び入りで参加することにした。あなたの使命は、この世ならざるものを見ることである。

【秘密】

ショック：全員

あなたは、物心がつくかつかないかの頃に、この屋敷に両親と共に住んでいた。しかし、両親が殺されたことにより、あなたは親戚の家に引き取られて今に至る。警察はこの事件を無理心中として捜査を打ち切ったようだが、果たして本当にそうなのだろうか。

あなたの真の使命は過去の事件の真相を解き明かすことである。

★また、この秘密はトリガーを満たすと、とある狂気として顕在化する。トリガーが満たされない限り、これは狂気には数えない。

(この狂気の内容はプレイヤーにも不明であり、トリガーが満たされた時に公開される)

2 K大心霊研究会の顧問 (職業：教授)

【使命】

あなたは北川未来の幽霊屋敷探索について行くことになった。あなたの使命は、学生たちが警察のお世話にならないようにすることである。

【秘密】

ショック：全員

あなたは、北川がこの屋敷の噂を教えてもらったという友人・川見が1ヶ月前から授業に出ていないことを知っている。北川はどうして、川見からこの屋敷の噂を聞いたなどと言ったのだろうか？

あなたの真の使命は、北川の真意を見極めることである。

★また、この秘密はトリガーを満たすと、とある狂気として顕在化する。トリガーが満たされない限り、これは狂気には数えない。

(この狂気の内容はプレイヤーにも不明であり、トリガーが満たされた時に公開される)

4 心霊研究会の部員 (職業：学生)

【使命】

あなたは北川未来の幽霊屋敷探索に参加することになった。あなたの使命は、幽霊屋敷探索を楽しんで帰ることである。

【秘密】

ショック：全員

あなたには、北川が屋敷に入る直前に悪意の感じられる笑みを零しているのが見えた。それは光の加減で偶然そのように見えたのか、それとも――

★また、この秘密はトリガーを満たすと、とある狂気として顕在化する。トリガーが満たされない限り、これは狂気には数えない。

(この狂気の内容はプレイヤーにも不明であり、トリガーが満たされた時に公開される)

4. NPC ハンドアウト

北川 未来

【使命】

あなたはK大の心霊研究会の部長である。あなたは『幽霊屋敷』を探索するためにPCたちを誘った。あなたの使命は、この『幽霊屋敷』で怪異の証拠を見つけることである。

アイテム：武器（手斧）

【秘密】

ショック：なし

あなたの秘密は、プライズとして現在この屋敷の中に存在する。あなたの真の使命は、秘密を守り抜き、その目的を達成することである。



三道 春美

【使命】

あなたは北川未来に幽霊屋敷探索に駆り出された。あなたの使命は、無事に帰って布団でぐっすり眠ることである。

【秘密】

ショック：全員

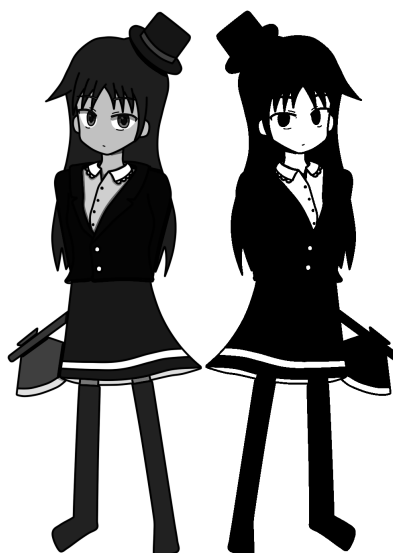
あなたは先ほど屋敷の本棚で手に取った『鬼蜥的啓示録（グィランデ・チシル）VI巻』と題された不思議な本を読んだ（＝本の秘密を獲得した）。あなたはこの本を読んでしまったことを後悔している。

あなたの真の使命は、友人たちに『鬼蜥的啓示録（グィランデ・チシル）VI巻』を読ませないことである。

ショック：全員



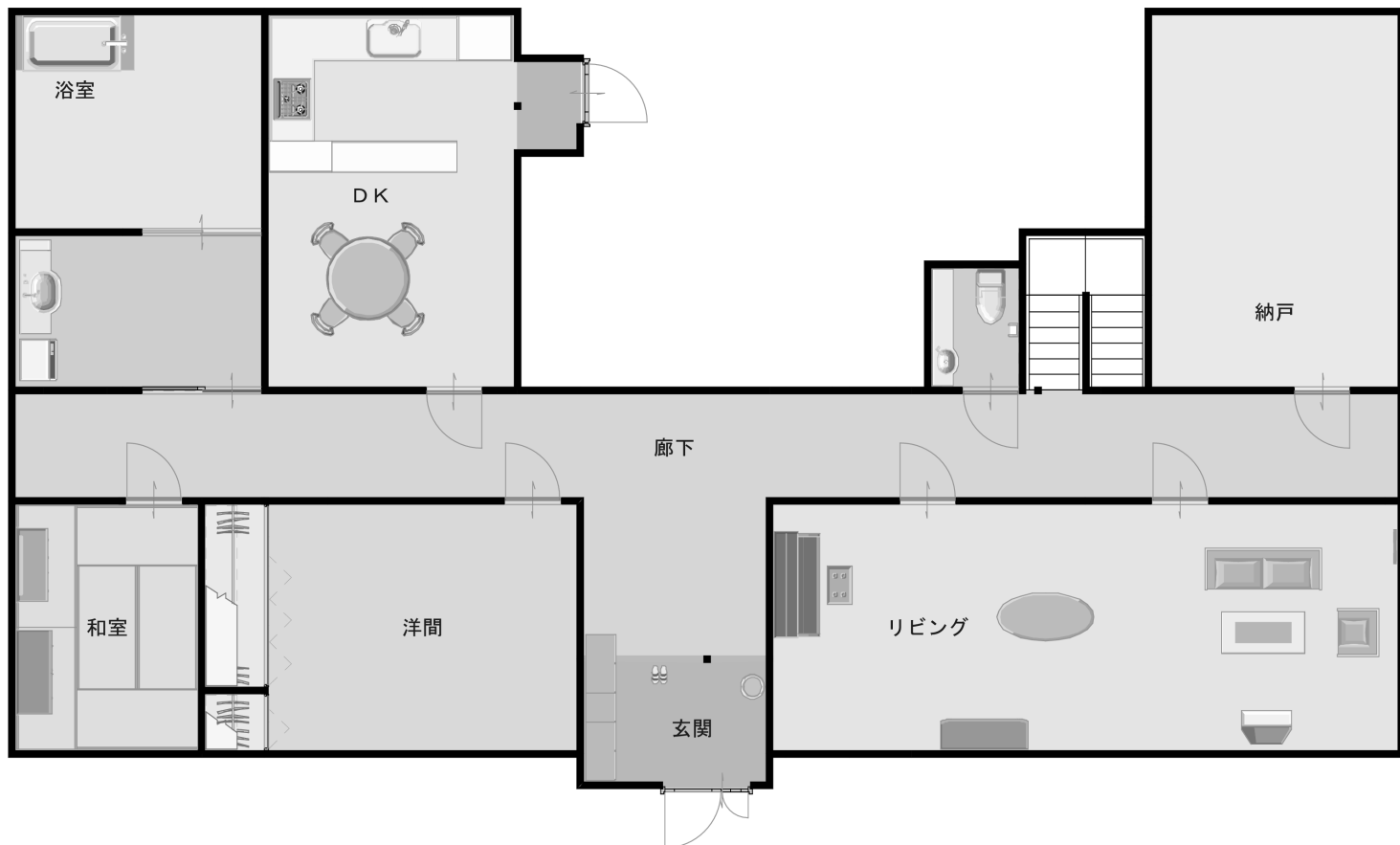
悪業に
染まる
月



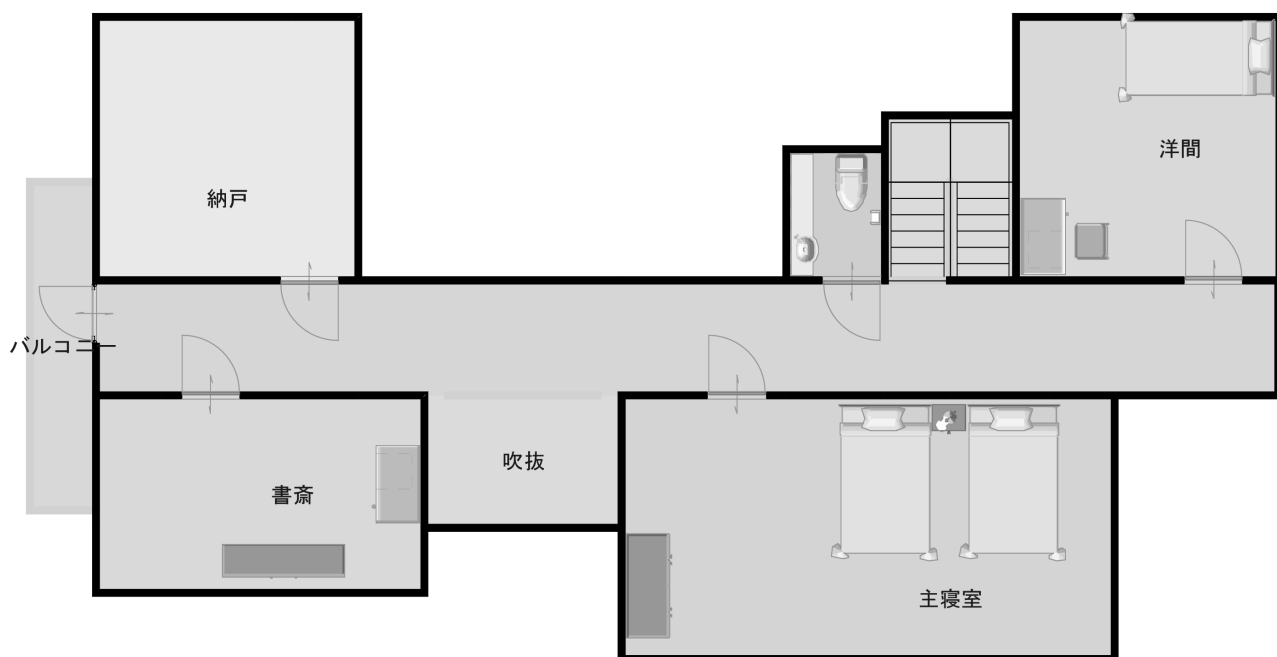
屋敷の見取図

プレイヤー資料 1

1 F



2 F



4. 初期公開ハンドアウト

I. [北川未来]

【使命】

あなたはK大の心霊研究会の部長である。
あなたは『幽霊屋敷』を探索するためにPCたちを誘った。
あなたの使命は、この『幽霊屋敷』で怪異の証拠を見つけることである。

アイテム：武器（手斧）＊2

【秘密】

あなたの秘密は、プライズとして今この屋敷の中に存在する。
あなたの真の使命は、秘密を守り抜き、その目的を達成することである。
ショック：なし

II. [三道春美]

【使命】

あなたは北川未来に幽霊屋敷探索に駆り出された。
あなたの使命は、無事に帰って布団でぐっすり眠ることである。

【秘密】

あなたは屋敷の本棚で『鬼埸的啟示録（グィランデ・チシル）VI巻』と題された不思議な本を読んだ（＝本の秘密を獲得した）。
あなたは本に書かれた怪物のことを恐れている。
あなたの真の使命は、友人たちに『鬼埸的啟示録（グィランデ・チシル）VI巻』を読ませないことである。
ショック：全員

III. [1階和室]

和室には埃っぽい空気が漂っている。
痛んだ畳。ボロボロの机、埃だらけの本棚。

【秘密】

机の引き出しからは日記帳が、本棚からは怪しげな本が見つかる。『鬼埸的啟示録（グィランデ・チシル）VI巻』のハンドアウトを公開する。
また、この秘密を得たPCは『妻の日記』のプライズを得る。ショック：PC3

浮気をした私が悪いかもしれない。
でも、まさか彼を、誠也を殺すなんて。
「私に隠してることはないのか？」って聞いてきた時の、あの人の目。今でもはっきり覚えてる。
どうしよう。このままじゃ私まで……。

ごめんなさい ごめんなさい
もんなつもりじゃなかったの
ゆるしてください ゆるしてください

プライズ『妻の日記』

IV. [1階ダイニングキッチン]

テーブルには古ぼけた椅子が3脚。
壊れた冷蔵庫、勝手口。

【秘密】

台所には新品の出刃包丁が、勝手口の横には新品のスコップが置かれている。
（これらは武器として手に入れることができる）
また、勝手口から屋敷を脱出しようとしても、あなたはなぜかこの屋敷から出ることはできない。
外に出ようと藪の中を歩いても、いつの間にか屋敷の入り口に戻ってしまうことだろう。

ショック：全員

★拡散情報

V. [玄関]

ここから外に出られる……はず。

【秘密】

あなたはこの屋敷から出ることはできない。
外に出ようと藪の中を歩いても、いつの間にか屋敷の入り口に戻ってしまうことだろう。

ショック：全員

★拡散情報

VI. [屋敷の噂]

屋敷に幽霊が出ると噂になっている。また、過去には実際にこの屋敷で殺人事件が起きたらしい。
北川は先週の授業後にこの噂を文学部の同級生である川見から聞いたようだ。

【秘密】

『首のない幽霊』が屋敷には住み着いている。
この幽霊は殺した人間の姿を借り、あらたな犠牲者を屋敷におびき寄せるのだという。
ショック：全員

VII. [1階リビング]

皮が剥がれ、スプリングが飛び出したソファァー。
足のぐらついたテーブル。古ぼけた黒電話。

【秘密】

黒電話を取ると、『連れて来た生贄というのはおまえか……』という声が聞こえる。
もちろん電話線は繋がっていない。
ショック：全員

VIII. [2階洋間]

部屋には小さな子供用ベッドが一つある。
また、子供用の玩具がボロボロになって転がっているようだ。

【秘密】

部屋からは新品のカッターナイフが見つかる。
(これは武器として扱う)
部屋に転がっているぬいぐるみや人形は、すべて頭が切り落とされている。おもちゃ箱に書かれた名前はPC3と同じ名前である。
また、部屋を出ようとする扉がひとりでに閉まり、開かなくなる。
出るためには扉を力技でこじ開けるしかないだろう。

ショック：全員

また、この秘密を見たキャラクターは、『破壊』で恐怖判定を行う。

★拡散情報

IX. [2階書斎]

この部屋には机と本棚が置かれている。
板間には埃が積もっており、思わず咳き込んでしまうほどだ。

【秘密】

机の中には日記帳があり、新品のアイスピック
(武器として扱う)が入っている。本棚には金枝篇のようなオカルト本の数々が並べられている。
この秘密を最初に得たPCは『夫の日記』のプライズを得る。

まったく、妻は隠し事が下手だ。
あまりに挙動不審な行動ばかりするのがおかしくて、
つい「私に何か隠していないか？」と聞いてしまった。

少し意地悪だっただろうか？
なにしろ私達の結婚記念日まで後2週間なのだ。
最近では誠也君がよく来ているし、私の好きなオカルト本
を翻訳してもらっているのかもしれないな。一体どの本だろう。
いやいや、せっかくのサプライズなんだから予想するのはよしておこうか。

当日はケーキを買って帰らなくっちゃな。

プライズ『夫の日記』



5. 非公開ハンドアウト

X. [鬼蝸的啟示録 (ギランデ・チシル) VI巻]

本からは嫌な気配が漂っている。
開かない方がいいような、そんな気がする。

【秘密】

イゴーロナクと呼ばれる首のない神がいる。
この神は、邪悪が存在するときに名を呼ばれると
顕現すると言われている。
邪神『イゴーロナク』は、基本的に顕現しない限りPCたちに直接害を与えることはできない。
しかし、例外としてこの本の秘密を獲得したキャラクターに限り、イゴーロナクは任意のタイミングでそのキャラクターを殺すことができる。

ショック：全員

また、この秘密を見たキャラクターは、『死』で恐怖判定を行う。

6. シナリオの進行

①導入フェイズ

探索者は、北川に誘われて幽霊屋敷へとやって来ることになる。屋敷の前には、探索者と北川に加えて三道が立っている。震えている三道を見れば、一見しただけで怖がっているのが分かるだろう。

北川は、これから幽霊屋敷の探索を行い幽霊の写真を撮影するのだと張り切っている。

屋敷と敷地の外観：レンガ作りの2階建ての屋敷である。敷地は広く建物も立派な作りであり、数十年前に住んでいたのであろうかつての住人が、裕福な暮らしをしていたことが想像できる。

しかし、今ではガラス窓は割れ、庭にはススキなどの背の高い雑草が茂っている。

屋敷の裏手は山になっており、両隣には民家が並んでいる。屋敷の正面は幅3mほどの生活道路になっており、深夜ともなると人通りは全くない。なお、この屋敷の周辺は電波の状況が悪らしく、携帯電話等が繋がらない。

ススキをかき分けて屋敷まで辿り着くと、玄関の木製扉は固く閉じられている。扉が裏から釘留めされているために開けられないのだ。

北川は、扉を開けることができないと分かると、持っていたバッグの中から手斧を取り出して扉を破壊する。ここからの屋敷の探索は、メインフェイズの行動として行う。

②メインフェイズ

メインフェイズの各サイクルの終了時には、以下のイベントが発生する。

第一サイクル開始時：

PCたちは、幻聴が聞こえるようになる。後ろから何かひたひたとついて来る足音が聞こえる。『物音』で恐怖判定。

第二サイクル開始時：

PCたちは、幻視が見えるようになる。窓の外や部屋の隅などに首のない幽霊が居たように見える。『物陰』で恐怖判定

第三サイクル開始時：

PCたちは、五感全てを伴った幻覚に襲われる。天井から首筋に水滴が落ちたように感じる。拭くと、それは血のように見える。しかし、それは次の瞬間に跡形もなく消えてしまう。『情景』で恐怖判定

これらのシーンでは、北川にのみ幻覚が見えていない。その旨を意識してNPCのロールプレイを行うこと。

③クライマックスフェイズ

探索していると、突然全員の意識がなくなる。『鬼峠的啟示録（グィランデ・チシル）VI巻』を読んだPCは『死』で判定を行うこと。（GMは、この判定が非常に重要な判定である旨をプレイヤーに伝えておくとうまいだろう）

気付くと北川と三道（そして前述の『死』の判定に失敗したPC）がいなくなっている。『死』の判定に失敗したPCのプレイヤーには、ハンドアウトが以下のものに書き換えられた旨と、GMによって指定されたタイミングまで登場できないことをこっそりと伝えること。

秘密（書換後）：あなたは『鬼峠的啟示録（グィランデ・チシル）VI巻』を読んだことにより、怪物イゴロナクの手で殺されてしまった。イゴロナクによって動く死体とされてしまったあなたに与えられた使命は、「共に屋敷を訪れた仲間たちを殺すこと」である）

居なくなった仲間たちを探していると、1階リビングから黒電話の鳴る音が聞こえてくる。

1階リビングの扉を開けてすぐに、錆びたような生臭い匂いが流れ出してくる。入り口からは、部屋のソファに腰掛けていた三道の後ろ姿が見える。三道の周りには、血溜まりの中に内臓がぶち撒かれている。探索者が正面に回りこむと、血塗れの三道の腹が角ばった異様な形で膨れているこ

とが分かる。そして、その膨れた腹は、小刻みな振動と共に黒電話の呼び出し音を鳴らしている。

（また、イゴロナクによって殺されたPCはその傍らで、遺体にまるで傳くかのように膝を立てた姿で首を切られて事切れている）

鳴り続ける電話を取ったならば、受話器の奥からボイスチェンジャーで変えたような不自然な声が聞こえる。

「あなた達も、すぐにイゴロナク様の生贄に…」

シーンに登場しているキャラクター（イゴロナクに殺されたPCを除く）は、恐怖判定：拷問を行う。

1階リビングから出ようとする、廊下の奥から北川が歩いてくる。北川は手斧を手にしており、手斧の刃からは血が滴っているように見える。

北川は「見つけた……」とつぶやくと、頬を歪ませて笑いながら探索者たちに近寄ってくる。ここからは北川との戦闘として処理する。

戦闘1回目概要

北川未来

生命力12 属性：生物

好奇心：感情

特技：破壊 追跡 哀しみ 驚き

[行動]

儀式：言葉よ届け（要3回。愛で判定）

北川は、あなたには分からない『何か』を延々と口走っている。

儀式の効果：この儀式が完成すると、PCたちの秘密に仕込まれた狂気である『悪意による浸食』を失わせる。儀式の正体は狂気に囚われたPCたちへの必死の呼びかけであり、『悪意による浸食』の狂気を失わせればPCは疑心暗鬼から解放され、正しく物事を認識できるようになる。

【狂気：悪意による浸食】

<トリガー>あなたが攻撃の対象としたキャラクターのHPを0にする。

効果：あなたにHPを0にされたキャラクターは死亡する。この狂気が顕在化した場合、同じシーンに登場しているキャラクター（自身を含む）は、恐怖判定：暗黒を2回行い、自身の持つ『悪意による浸食』の狂気を失う。

経緯はどうあれ、『悪意による浸食』の狂気を失ったPCは、この屋敷から任意のタイミングで脱出できるようになる。

この戦闘の目的は、謎解きの総決算である。ここまで得た情報から『狂っているのが北川ではなく自分たちである』ことを認識していれば、北川を殺すことなく彼女の言葉を受け入れることができるだろう。

もしも北川を殺してしまった場合、以下のプライズが手に入る。

プライズ：集合写真

北川とPCたちが写った集合写真

【秘密】（自動開示）

北川にとって、心霊現象の調査はPCたちを誘うための口実である。この気の合う仲間たちと過ごす時間が、彼女にはとても大切な時間なのだ。

決して怪異なんてどうでもいいという訳ではないが……怪異の証拠なんて見つからなくてもいいじゃないか。照れくさくて、そんなことはとても口には出せないけれど。

北川の真の使命は『友人たちと一緒に楽しい時間を過ごすこと』である。

ショック：全員



戦闘が終わり、PCたちが『悪意による浸食』から解放されると、どこからか、足音と何かを引きずるような音がする。1階リビングから、腹から受話器のコードをぶら下げた三道の死体が、受話器を床に引きずりながら歩いてきたのだ。

この歩く死体は、PCたちを見つけると襲い掛かってくる。また、もしもPC1が錯乱状態だった場合、ここでイゴーロナクの名を呼んでしまう。すると、死体は徐々に膨れ始め、首のない太った大男の姿に変化する。

PCたちは既に精神干渉から解放されているため、この怪物から逃れてそのまま屋敷の外に出ることも可能である。ただし、その場合には結末が少し変わることになる。

戦闘2回目概要

歩く屍

生命力12 属性：怪異

好奇心：怪異

特技：死 埋葬 魔術 切断

[行動]

基本攻撃：切断

連撃：切断

イゴーロナク

恐怖判定：魔術

生命力75 属性：怪異／神

好奇心：怪異

特技：死 魔術 切断 拷問 恨み 痛み

[行動]

召喚：魔術

歩く死体、もしくはイゴーロナクを倒すと、探索者は屋敷に入る時に感じていた背筋の寒さがピタリと止まったことに気付く。

死体はみるみるうちに灰となり、屋敷の床に砂まみれの電話機だけが残る。灰の上には蜃気楼のように薄れかけた姿の三道が現れ、探索者にイゴーロナクから解放してくれた礼を言って消える。この三道が本物なのか、それとも探索者たちの見た幻影なのかはついに分らない。

その後、三道の行方不明については騒動になり、探索者も事情を聞かれることになるが、真相は分からないまま時間が過ぎていくことになる。

ただし、探索者が歩く死体、もしくはイゴーロナクから逃げ出して生還した場合には異なる展開が待っている。

屋敷での一件からしばらくして、大学では学生の失踪が相次ぐ。彼らは皆、失踪の直前に三道らしき女子学生と話していたという。探索者たちは、彼女がもう生きてはいないことを知っているのだが……。

